



倉持

竹内 (邦)

米井

近藤

吉田

津山市の明日に 架ける橋について

津山新星会議

代表質問者 吉田 耕造

質問 ↓ ①行革 ②財政 ③機構改革 ④地域ブランドについて会派を代表し質した。行革について、津山市事業評価委員会 (企画室が担当で委員長・副委員長は副市長、委員は教育長、水道事業管理者、企画・総務・財政の各部長) と津山市行財政改革推進委員会 (行革室が担当で津山市の付属機関) との関係と役割の違いは何か。二つの委員会と補助金審査委員会の有機的な関係及び、予算編成に係わる役割は何か。

答弁 ↓ 双方とも事業の必要性・効率性等を客観的に分析する評価・点検の手法で、時代のニーズに合わせた改善・改革を目的とする点は共通している。事業評価はゼロベースからの判断ツール。総点検は既存事業の見直しツールである。総点検で改善方針が示された事業は、事業評価や補助金の審査に有機的につなげながら、予算反映に具現化されるよう、改善を図っていく。

質問 ↓ 財政計画について、財産収入の一億円の減額補正は何が原因で減額したのか。一億円の収入があれば住民から要望のある社会生活に直結した市道改良や修繕が進んでいたのでは。十九年度の要望と実績、そして事業費はいくらか。旧社会保険センターの用地取得から開館までに要した経費及び、その財源は。幼稚園・小学生・高齢者の世帯が転入した場合の具体的な来庁時の動線は。福祉部門で地域間格差の制度や委託料は。

答弁 ↓ 財産収入の一億円減額は当初予算で計画していた北町駐車場が売却できなくなったため。道路改良・修繕、交通安全施設整備などの要望件数は六百七十二件、対応は三百九十九件。事業費は約一億九千八百万円。旧社会保険センターの土地、建物等の取得費は約二億六千五百万円。改修委託料は一億一千万円。財源は充当率九十五%で合併特例債を予定している。転

入者の動線について、こども課の業務は「すこやか・こどもセンター」に移行するが、転入・転出・出生等の異動に伴う各種申請は本庁一階北側に設置する、こども課社会福祉事務所分室で対応する。旧町村で実施していた高齢者外出支援サービスを統一し、福祉巡回バスとして運行。旧市内には交通空白地帯があり全体の公共交通について検討する。

質問 ↓ 機構改革について、教育委員会を、昨年六月二十七日に公布され、今年四月一日から施行される「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」でなく「自治法一八〇条の七」で機構改革したのか。

答弁 ↓ 改正は教育委員会の充実と地方分権の推進を目的とし、スポーツ・文化に関する事務の所掌の弾力化を図るものである。教育委員会の意見反映が行われ、市長部局内での連携強化と効率的な行政運営を目指し補助執行の手法を選択した。